
第26回「化学工学物性定数の最近の動向」講演会

製造プロセスの設計・開発に使える 相平衡・輸送物性について考える

共 催：分離技術会，化学工学会基礎物性
協 賛：化学工学会関東支部，日本プロセス化学会，日本化学会（予定）
日 時：2018年10月26日（金）10:00－17:40
場 所：日本大学理工学部駿河台校舎（詳細は決定次第，学会ホームページに掲載します）
JR 総武線・中央線 御茶ノ水駅，地下鉄千代田線 新御茶ノ水駅 徒歩5分
案内図 <http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/index.html>
定 員：50名（先着順）

製造プロセスの設計・開発を行う際には，反応器の設計に加え，反応器から取り出される主・副生成物質や未反応物質からなる混合物の中から化成品を分離・精製しなければなりません．代表的な分離・精製法として，蒸留や各種抽出操作あるいは晶析などの平衡分離が上げられますが，これらの中から分離対象とする混合物の状態や熱的安定性，あるいはエネルギーコストなどの経済性の観点から，最も効果的かつ効果的な方法を取捨選択し，その装置設計を行う必要があります．しかし，そのためには，異相間の平衡（気液平衡，液液平衡，固液平衡など）や輸送物性（粘度，拡散係数など）などの化学工学物性が必須の基礎物性となります．

そこで今回の「化学工学物性定数の最近の動向」講演会では，製造プロセスを設計・開発する際に鍵となる相平衡・輸送物性に関する研究の最近の動向とその活用方法と題して，この分野の第一線で活躍されている講師の方々をお招きして，最近の研究から得られた新たな知見を，その活用方法を含めて解説していただきます．

このように本講演会は，広く製造プロセスに携わっている技術者や研究者の方々にとって非常に役立つ内容となっておりますので，奮ってお申込みいただきますようお願い申し上げます．

■ プログラム：

10:00－10:50 「総論：化成品製造プロセスの設計・開発における化学工学物性の活用」

（応用物性研究所）大場 茂夫 氏

10:50－11:40 「気液平衡データの測定と相関法に関する研究動向」

（日本大学）日秋 俊彦 氏

－ 昼 食（11:40～12:40） －

12:40－13:30 「溶解度（液液・固液平衡）データの測定と相関法に関する研究動向」

（日本大学）松田 弘幸 氏

13:30-14:20 「粘度・拡散係数の測定に関する研究動向」

(中央大学) 船造 俊孝 氏

14:20-15:00 「コールタールピッチ含有系の高温気液平衡測定およびモデル化技術開発」

(三菱ケミカル株式会社) 加藤 亮 氏

— 休 憩 (15:00~15:20) —

15:20-16:00 「有機半導体・医薬品の溶解度の溶媒依存性と混合溶媒中での極大」

(国立研究開発法人 産業技術総合研究所) 竹林 良浩 氏

16:00-17:40 「ペトロリオミクス技術に立脚した物性値推算」

(出光興産株式会社) 間瀬 淳 氏

- 参加費：維持・特別・正会員・協賛会員：18,000 円，学生：5,000 円，会員外：28,000 円，同時入会：23,000 円（学生を除き，参加費には書籍「実用プロセス物性集覧」を贈呈）。なお，参加費は郵便振替または下記銀行に前納にてお振込みください。

郵便振替：00100-9-21052 口座名 分離技術会

みずほ銀行：神田支店 普通預金 1010899 口座名 分離技術会

- 申込先:参加ご希望の方は必要事項をご記入のうえ，下記事務局までFAXにてお申込みください。E-mailでお申込みの場合は以下の必要事項を入力のうえ，「第26回化学工学物性定数の最近の動向申し込み」と題して送信してください。

申し込み締切日：2018年10月19日（金）。ただし締切日前に定員に達した場合はその時点で締め切らせて頂きますので，お早めのお申込みをお願い致します。

第26回「化学工学物性定数の最近の動向」講演会参加申込書

フリガナ 氏 名			
勤務先			
所 属			
所在地	〒 TEL _____ FAX _____ e-mail _____		
送金内訳	郵便振替 ・ 銀行振込	請求書	要 ・ 不要
会員資格	(正・維持・特別会員) ・ 学生 ・ 協賛団体会員 ・ 同時入会 ・ 会員外		

〒214-0034 川崎市多摩区三田 1-12-5-135 分離技術会 事務局 TEL 044-935-2578

FAX 044-935-2571 e-mail : jimuj@sspej.gr.jp http://www.sspej.gr.jp/